

会 議 録 (要 旨)

会 議 名	平成 2 7 年度瑞穂町子ども・子育て会議 (第 1 回)
開 催 日 時	平成 2 7 年 6 月 2 4 日 (水) 午後 6 時 3 0 分から午後 8 時 4 5 分まで
出席者及び 欠 席 者	【出席者】委員 8 名、事務局 3 名、関係者 0 名 合計 1 1 名 【欠席者】委員 4 名
次 第	1 開 会 2 あいさつ 3 委嘱状 交付 4 委員及び事務局 自己紹介 5 会長及び副会長 互選 6 報告事項 (1) 子ども・子育て支援事業計画について (2) 子ども・子育て会議について 7 協議事項 (1) 子ども・子育て支援事業計画の進捗状況等管理票について (2) 子ども・子育て会議スケジュールについて 8 情報交換 9 閉 会
傍 聴 者	なし
配 付 資 料	資料 1 瑞穂町子ども・子育て会議条例 資料 2 瑞穂町子ども・子育て会議委員名簿 資料 3 瑞穂町子ども・子育て支援事業計画進捗状況等管理票 ～計画の基本的事項 資料 4 瑞穂町子ども・子育て支援事業計画進捗状況等管理票 ～計画の体系
会 議 内 容 (主 な 意 見 等 を 原 則 と し て 発 言 順 に 記 載 。)	1 開 会 事務局から、配付資料の確認。 会議に際し、定足数に達していること及び会長選出まで事務局が会議 を進行することを確認。 2 あいさつ 福祉課長よりあいさつ。

3 委嘱状交付

委員を代表して田中委員へ交付。他の委員については机上配付としたことを説明。

4 委員及び事務局 自己紹介

5 会長及び副会長互選

立候補者がいなかったため、事務局から推薦をすることで了解を得た。会長には前会長の戸田委員、副会長には民生児童委員の田中委員を推薦し、他の委員の了解を得た。

6 報告事項

(1) 子ども・子育て支援事業計画について

○事務局から子ども・子育て支援事業計画の概要及び当該計画の特徴について、会長から計画が策定されるまでの経緯等について説明。

○各委員からの意見及び質問並びに事務局の回答

(委員)

平成27年度に既存施設2園が小規模保育所に移行との記載があるが、具体的にはどこの施設なのか。

(事務局)

認証保育所「子育て支援チャイルドハウスすみれ」が認証保育所を廃止して小規模保育所「ゆめのもり保育園」へ、認定こども園「きぼうのにわこどもえん」が認定を返上して小規模保育所「瑞穂のぞみ保育園」となった。

(2) 子ども・子育て会議について

事務局から子ども・子育て会議の概要、会議の所掌事務について資料1に基づき説明。

7 協議事項

(1) 子ども・子育て支援事業計画の進捗状況等管理票について

○事務局から子ども・子育て支援事業計画の進捗状況や今後の課題につ

いて資料3、4に基づき説明。進捗状況等管理票の様式がこれでよいかの協議をお願いした。

○各委員からの意見及び質問並びに事務局の回答

(会長)

支援事業計画に沿って、進捗状況等管理票の枠が作られているのか。

(事務局)

支援事業計画の第4章は資料3、第5章が資料4ということで対比してみていただくよう作ってある。

(会長)

進捗状況等管理票を見るだけだと、何の課題で何のための枠なのか意味がわからない。今まで出てきた課題や要望、それぞれの事業に対して各課が受け止めた問題点や課題を管理する枠を設け、この課題はクリアした・していない等の進捗状況の説明のほうがわかりやすいのではないかと思う。

(事務局)

特に資料4については、現在はただの票である。行政でこのような資料を作成する際は、住民目線で課題を出している。どのような成果があったのか事業量を記載するのではなく、その成果を記載するよう各課に話をする。また、子ども・子育て会議は進捗管理が出来る唯一の専門的な会議であるので、すべての施策について目を通していただきたい。一般に公表するとなると、このままでは負担である。A4一枚程度に各年度の概要版を作成してお知らせしようと考えている。

(委員)

今後、それぞれの施策に対し行ったことを記載し、出てきた課題を同じ課題欄に記載していくのか。

(事務局)

その通り。

(委員)

どの施策についての課題なのかが羅列されてしまうとわかりにくい。その施策についての課題がこれだと一目見てわかるほうがよいのでは。しかし、今までやってきたことをすべて載せるとなると逆に見づらくなってしまおうと感じた。

(事務局)

現在考えているイメージは、年度の最後に皆さんに報告し、意見をいただき、その年度の課題をあげていく。その課題をもって翌年度に向けて取り組み、課題をクリアできたら課題欄から消す。課題の部分は毎年動いていくものである。最終的に平成31年度が終わって残った課題については、翌年度計画でどうしようかということでこの票は使っていきたいと思っている。各年度の進捗状況をすべて載せるのは厳しいので、改善した部分だけを載せる。5年経つとどのように改善されたのか計画の結果が出てくる。そして残った課題がここに残ってくる、というようにしたいが、それまでに町はどこまでやっていったのかを載せるとなると、厳しいところがある。また、施策ごとに課題を、という話があったが、改善する余地のない施策もあるため、特に課題がないこともある。

大きな項目の場合は、例えば施策ごとに番号を振り、それぞれの番号に対する課題を記載する工夫をしたいと考えている。

(委員)

年度末で課題を報告するという話だが、次の会議までに実施したことは、随時載ってくるということでよいか。

(事務局)

その通り。会議の回数にもよるが、上半期1回・下半期1回と考えている。上半期の進捗状況と課題を踏まえて、どう改善されたかがわかるように進めていきたいと考えている。

(委員)

資料3の確保内容①、利用量②は人数のことを指していると思うが、なぜこのような表現になっているのか。

(事務局)

ニーズ調査時から「量」という言葉を使用しているため、使用しているが修正は可能である。

(委員)

次回の会議の際は、いつ時点の進捗状況であるという記載はどこかにするのか。

(事務局)

表紙にいつ時点であるということは表示する。

皆さんから意見をいただいているように、まだブランクのものが多い状況であり、この進捗状況等管理票は国が定めたものではない。例えば、今年の上半期が終わってみて、修正をすることも可能である。生の数字が入ってから見てみるとまた違うのではないかと思う。

(委員)

各課で、今年度重点的に行う取り組みを立てていると思うので、その取り組みを入れる枠を設け、その横に進捗状況を入れるのはどうか。平成31年度までのブランクがなくてもいいと思う。どこの課が今年はこのようなことを頑張ってもらっていることがわかり、それがやろうとして出来なかったのか、半分まで出来ているのかと、はっきり目に見える形で示してもらったほうが、個人的にはいいと思っている。変更が可能であるとのことなので、一度出してもらって見づらいことがあれば修正すればいいのでは。

(事務局)

早い段階であれば修正できるが、どんどん積み上げていき最後に修正というのは難しい。

(会長)

私たちは行政に詳しいわけではないので、各課で力を入れていることを具体的に言ってもらい、周知やPRを行政はこのようにやっている、また行政以外の地域の方も色々やってくれていて、更にネットワークを広げ、活動を広げようということが目に見えるといいと思う。

待機児童が何人いるかは私たちには分かりにくいですが、この会議には様々な立場の人が集まっているし、一番大事なことは、地域の方やここにいる委員がネットワークを使って意見を出し合い広げていかないと、この会議だけで終わってしまう。行政は行政でしてもらうことはあるが、私たちはそれぞれの立場で瑞穂町の子育てに対してやれることはないか、という話し合いが少ないのではないか。行政のやっていることのチェックだけで終わるとこの会議の意味が半減してしまうと感じている。行政で取り組むべき課題はたくさんあるので、もう1つプラスαの枠を設ければいいのでは。

(事務局)

では、町で出来ること、協働として皆さんにこのようなことをしても

らえれば助かるという枠を一つ設けるのはどうか。しかし、あまり細かいことまで、この票に落とし込むと見きれぬのかと思うが、なんとか落とし込むように考える。

(委員)

1 ページで5年間でわかるようにしなければならぬものなのか。もしそうでないのであれば、比較するために1ページに2、3年程度のものにし、現状を短くまとめて、こんなことが出来ていて、今年度はこのようなことをやろうとしているということを書き込み、それに対してここまで出来ました、とすれば前年度との比較も出来るし、今取り組んでいることも一目でわかるという形にすればいいのでは。5年間を入れると、それぞれが小さくなり、見づらくなってしまう。

またこの子ども・子育て会議で何をやるのかということについてだが、どこまでこの会議としてやるべきなのか、やっていいのか、というところが曖昧だとやったりやらなかったりが出てしまうのでは。年間2回の会議だとしたら、私たち委員が何をやるにも時間的に厳しいと思う。事務局としてこの会議のメンバーにどこまで要求するかということもしっかり出してもらわないと、いけないのかなと思う。

(委員)

せっかく民生・児童委員の方もいるわけだから、地域ことについても色々話し合うような機会も欲しい。

(委員)

この会議に出て、色々な方の話を聞いて、今まで知らなかったことも知れたので、その情報を自分たちのところへ持ち帰って利用していくことはとても大事だと思う。

(委員)

この会議の回数は増やせるのか。

(事務局)

増やすことは可能である。ただ、この会議として何かを実施することは出来ない。この会議に何を願うのかというと、町が行っている施策の進捗管理、調査等についてである。

(委員)

町としては計画を国から言われて作りました、会議で委員から意見を

聞きました、という形の会議ですよね。いくら意見を出しても通るわけでもない。町として子育て事業をどこがメインで行うのか、旗振りがしっかりしていないと、また全部の課に出させたところで、前と同じようなことが書かれて出てくるだけでないのか。優先順位を付け、予算を付けてやればいいのか。幼稚園の定員は600人である。利用量は400人なので200人分余っている。教室も余っている。そこに町がお金を出せば、2歳児、1歳児を受け入れることは可能である。私たちの幼稚園では2歳から受け入れている。2歳児クラスは2クラスある。町からお金が出れば2歳児の待機児童は無くなる。0歳については小規模保育所に頑張ってもらおう。認可保育園の3～5歳児を幼稚園に預けて、その分の定員で0、1歳児を受け入れる。行政がお金を出せば、待機児童は解消すると思う。また、障がい児保育や病後児保育でもお金を出してもらえればやることはできる。場所はあるのだから。

また、福祉課と教育課が分かれているけど、庁舎を新しくするなら子育て支援課を作り、予算や権限を与えれば、瑞穂町の子育ては素晴らしいと思う。瑞穂町はもっと良くなると思う。

(事務局)

行政として出した結論はこの計画である。全ての部分にお金を使えるのであれば、病児・病後児保育も出来る。ただ需要が少ないので出すことが出来ない。

(委員)

全ての事業に予算を付けて、この計画通りには出来ないから、もっと絞って欲しい。これからもっと子どもが減る。この計画の出生数は見込みが甘いと思う。もっと減る。小学校は2つでいいと思うし、平成31年度までにはそのような状態になるかもしれない。

(事務局)

我々は町長の補助者であるため、決定権はない。町長は住民から選ばれた人である。予算を付けてチェックするのは議会の役目。瑞穂町として予算化するのはこの計画にあること。病児・病後児保育は近隣でも利用者が少ない状況である。

(会長)

予算をあまり付けなくても出来る子育て支援があるし、目に見えない

部分で小さな動きが始まっている。その動きがこの会議で広がればいいと思う。進捗状況等管理票については、今日出た意見を基にして、再度検討するようお願いしたい。

(2) 子ども・子育て会議スケジュールについて

○事務局から子ども・子育て会議のスケジュールについて、必要であれば回数を増やすこと、上半期及び下半期に一度進捗状況の確認を行うこと、必要性等を踏まえ回数を調整することを説明。

○各委員からの意見及び質問並びに事務局の回答

(会長)

昨年度の会議では、各課の担当者が出席していた。次回は各課の担当者にも出席してもらい、具体的に今年度行っている取り組みについて話し合いが出来ること、やや有意義に会議が出来るのではないかと感じている。上半期及び下半期の会議だけでなく、その間に1回会議を開催し、年に3回程度というのはどうか。

(事務局)

上半期の目途がついたところに会議を開催し、足りないようであれば追加して開催する。

(委員)

各課の担当者が出席するのならば、各課で取り組んでいる課題だけではなく、行政だけでは解決が難しいというような課題を出して欲しい。

(会長)

書面で報告しただけでは、せっかく集まる意味も無いので、意義ある会議になるようにしたい。

8 情報交換

会議に参加しての感想等について各委員から一言をもらった。ホームページのリニューアル、子育てアプリ、広報の子育てページ、子育てに特化した広報誌、瑞穂の福祉についての情報交換を行った。

9 閉会